

国立大学法人奈良教育大学の役員報酬・給与等について

I 役員報酬等について

1 役員報酬についての基本方針に関する事項

① 平成18年度における役員報酬についての業績反映のさせ方

常勤役員にかかる俸給および期末特別手当の額については、文部科学省国立大学法人評価委員会が行う業績評価の結果を勘案し、その者の職務実績に応じ、増減できると定めている。
平成18年度については、常勤役員の職務実績及び法人としての業務実績等を総合的に判断した結果、俸給および期末特別手当の額の増減は行わなかった。

② 役員報酬基準の改定内容

| | |
|---------|--|
| 法人の長 | <ul style="list-style-type: none"> ・俸給について、平成18年4月1日以降、6.7%の引き下げを行った。(国の指定職俸給表に準拠) 平成18年4月1日在任者については、その任期中、差額保障の経過措置 ・調整手当を地域手当に改め、支給率について、平成18年4月1日以降、3%から4%に引き上げを行った。(国に準拠) |
| 理事 | <ul style="list-style-type: none"> ・俸給について、平成18年4月1日以降、6.7%の引き下げを行った。(国の指定職俸給表に準拠) 平成18年4月1日再任者については、差額保障(毎年差額の2分の1ずつを減)の経過措置 ・調整手当を地域手当に改め、支給率について、平成18年4月1日以降、3%から4%に引き上げを行った。(国に準拠) |
| 理事(非常勤) | <ul style="list-style-type: none"> ・非常勤役員手当について、平成18年4月1日以降、日額を50,000円から47,000円に引き下げを行った。 平成18年4月1日再任者については、その任期中、差額保障の経過措置 |
| 監事 | 該当者なし |
| 監事(非常勤) | <ul style="list-style-type: none"> ・非常勤役員手当について、平成18年4月1日以降、日額を50,000円から47,000円に引き下げを行った。 平成18年4月1日再任者については、その任期中、差額保障の経過措置 |

2 役員報酬等の支給状況

| 役名 | 平成18年度年間報酬等の総額 | | | | 就任・退任の状況 | |
|---------------------|----------------|--------|-------|--|------------|-------------|
| | 千円 | 報酬(給与) | 賞与 | その他(内容) | 就任 | 退任 |
| 法人の長 | 18,646 | 12,780 | 5,264 | 91 (通勤手当) 511 (地域手当) | | |
| 理事 (2人) | 26,177 | 17,601 | 7,224 | 159 (通勤手当) 492 (単身赴任手当) 701 (地域手当) | 4月1日 1名 | 3月31日 1名 |
| 理事 (非常勤) (1人) | 500 | 500 | 0 | 0 () | | |
| 監事 (0人) | | | | () | | |
| 監事 (非常勤) (2人) | 1,200 | 1,200 | 0 | 0 () | | |

注1:「地域手当」とは、民間における賃金が特に高い地域に在勤する役員に支給しているものである。

3 役員退職手当の支給状況(平成18年度中に退職手当を支給された退職者の状況)

| 区分 | 支給額(総額) | 法人での在職期間 | 退職年月日 | 業績勘案率 | 摘要 |
|------|---------|----------|-------|-------|-------|
| 法人の長 | 千円 | 年 月 | | | 該当者なし |
| 理事 | 千円 | 年 月 | | | 該当者なし |
| 監事 | 千円 | 年 月 | | | 該当者なし |

II 職員給与について

1 職員給与についての基本方針に関する事項

① 人件費管理の基本方針

中期目標期間中の予算の年度展開を参考に、当法人の予算の範囲内で、当法人の給与規則に則り、人件費の効率的かつ適正な運用に努める。

② 職員給与決定の基本方針

ア 給与水準の決定に際しての考慮事項とその考え方

「一般職の職員の給与に関する法律」等の国家公務員の給与制度を参考として、社会一般の情勢を踏まえつつ、給与水準を決定している。

イ 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方

勤務成績に応じて、昇給、昇格及び降格を実施している。また、賞与については、支給割合を増減させることにより、勤務に対する評価を反映させている。

[能率、勤務成績が反映される給与の内容]

| 給与種目 | 制度の内容 |
|------------------|--|
| 賞与:勤勉手当 (査定分) | 6月1日及び12月1日(以下「基準日」という。)にそれぞれ在職する教職員に対し、基準日以前6箇月以内の期間における、その者の勤務成績に応じて支給する。(国家公務員の給与制度に準拠) |
| 昇給 | 1年間を良好な成績で勤務した教職員は、4号俸を標準として上位の号俸に決定することができる。(国家公務員の給与制度に準拠) |
| 昇格 | 特に勤務成績が優秀で、かつ当法人が定める基準を満たす教職員は、上位の級に決定することができる。(国家公務員の給与制度に準拠) |
| 降格 | 勤務成績が不良な教職員は、下位の級に決定することができる。(国家公務員の給与制度に準拠) |

ウ 平成18年度における給与制度の主な改正点

- 各俸給表について、平成18年4月1日以降、次のとおり引き下げを行った。
一般職(一)平均4.8% 一般職(二)平均1.2% 教育職(一)平均5.5%
教育職(二)平均4.7% 医療職(一)平均3.7% 医療職(二)平均3.0%
施行日前日から在職する教職員について、新旧俸給月額差額の差額を保障する経過措置
- 俸給表の級構成の再編及び号俸の4分割を行った。
一般職(一) 11級制を10級制に再編 1級と2級、4級と5級を統合 10級を新設
一般職(二) 6級制を5級制に再編 3級と4級を統合
教育職(一) 5級制を6級制に再編 6級を新設
- 6月期の勤勉手当支給割合について、0.025月分引き上げを行った。
- 調整手当を地域手当に改め、支給率について、平成18年4月1日以降、3%から4%に引き上げを行った。
- 普通昇給と特別昇給を統合し、査定昇給制度(昇給基準を5段階に区分)を導入した。
- 配偶者に係る扶養手当について、平成18年4月1日以降、月13,500円から13,000円に引き下げを行った。
- 初任給調整手当の支給限度額について 平成18年4月1日以降、月50,200円から50,000円に引き下げを行った。

2 職員給与の支給状況

① 職種別支給状況

| 区分 | 人員 | 平均年齢 | 平成18年度の年間給与額(平均) | | | |
|----------------------|-------|------|------------------|-------|--------|-------|
| | | | 総額 | うち所定内 | | うち賞与 |
| | | | | | うち通勤手当 | |
| 常勤職員 | 203 | 48.4 | 8,215 | 5,906 | 135 | 2,309 |
| 事務・技術 | 45 | 44.8 | 6,236 | 4,557 | 178 | 1,679 |
| 教育職種 (大学教員) | 101 | 51.8 | 9,654 | 6,849 | 135 | 2,805 |
| 医療職種 (病院医師) | 該当者なし | | | | | |
| 医療職種 (病院看護師) | 該当者なし | | | | | |
| 技能・労務職種 | 1 | | | | | |
| 教育職種 (附属義務教育学校教員) | 54 | 45.2 | 7,353 | 5,392 | 100 | 1,961 |
| 教育職種 (外国人教師等) | 1 | | | | | |
| その他医療職種 (医療技術職員) | 1 | | | | | |
| その他医療職種 (看護師) | 1 | | | | | |

| | | | | | | |
|------|-------|--|--|--|--|--|
| 在外職員 | 該当者なし | | | | | |
|------|-------|--|--|--|--|--|

| | | | | | | |
|-----------------|-------|--|--|--|--|--|
| 任期付職員 | 該当者なし | | | | | |
| 事務・技術 | | | | | | |
| 教育職種 (大学教員) | | | | | | |
| 医療職種 (病院医師) | | | | | | |
| 医療職種 (病院看護師) | | | | | | |

| | | | | | | |
|-----------------|-------|--|--|--|--|--|
| 再任用職員 | 該当者なし | | | | | |
| 事務・技術 | | | | | | |
| 教育職種 (大学教員) | | | | | | |
| 医療職種 (病院医師) | | | | | | |
| 医療職種 (病院看護師) | | | | | | |

| | | | | | | |
|-----------------|-------|--|--|--|--|--|
| 非常勤職員 | 該当者なし | | | | | |
| 事務・技術 | | | | | | |
| 教育職種 (大学教員) | | | | | | |
| 医療職種 (病院医師) | | | | | | |
| 医療職種 (病院看護師) | | | | | | |

注1: 常勤職員については、在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。

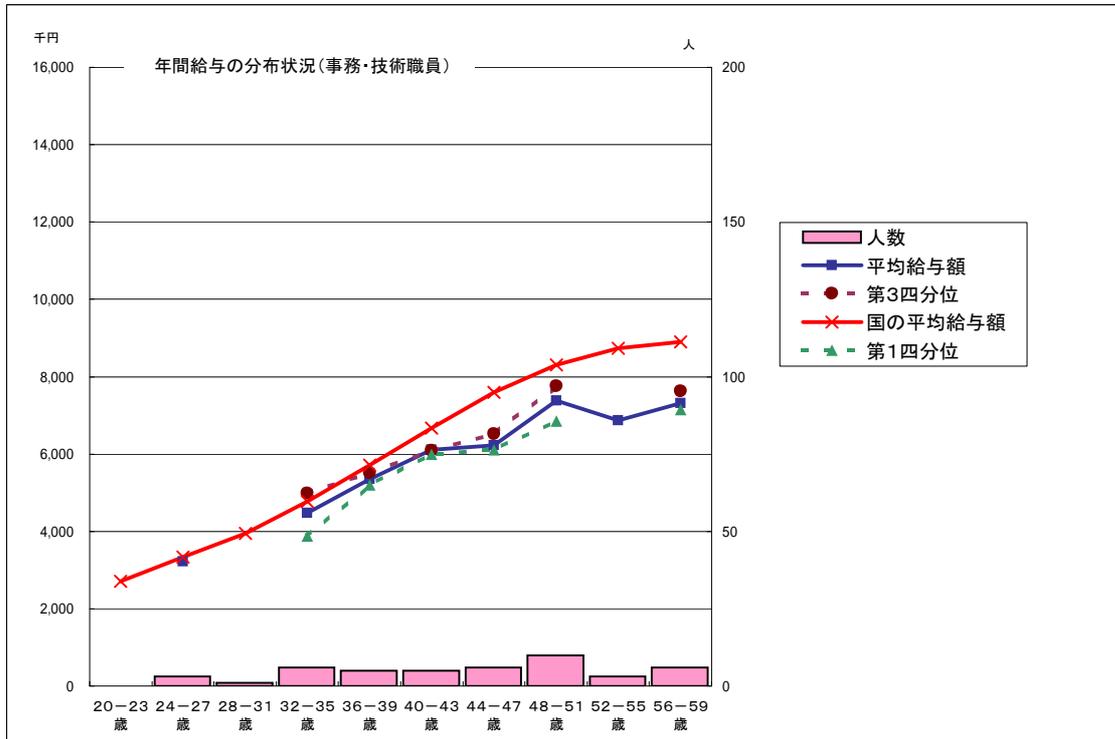
注2: 「技能・労務職種」とは、調理師の業務を行う職種を示す。

注3: 「教育職種(附属義務教育学校教員)」には、附属幼稚園教員を含む。

注4: 常勤職員の技能・労務職種、教育職種(外国人教師等)、その他医療職種(医療技術職員)及びその他医療職種(看護師)については、該当者が1人のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、人数以外は記載していない。

② 年間給与の分布状況（事務・技術職員/教育職員(大学教員)）
 [在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。以下、⑤まで同じ。]

(事務・技術職員)

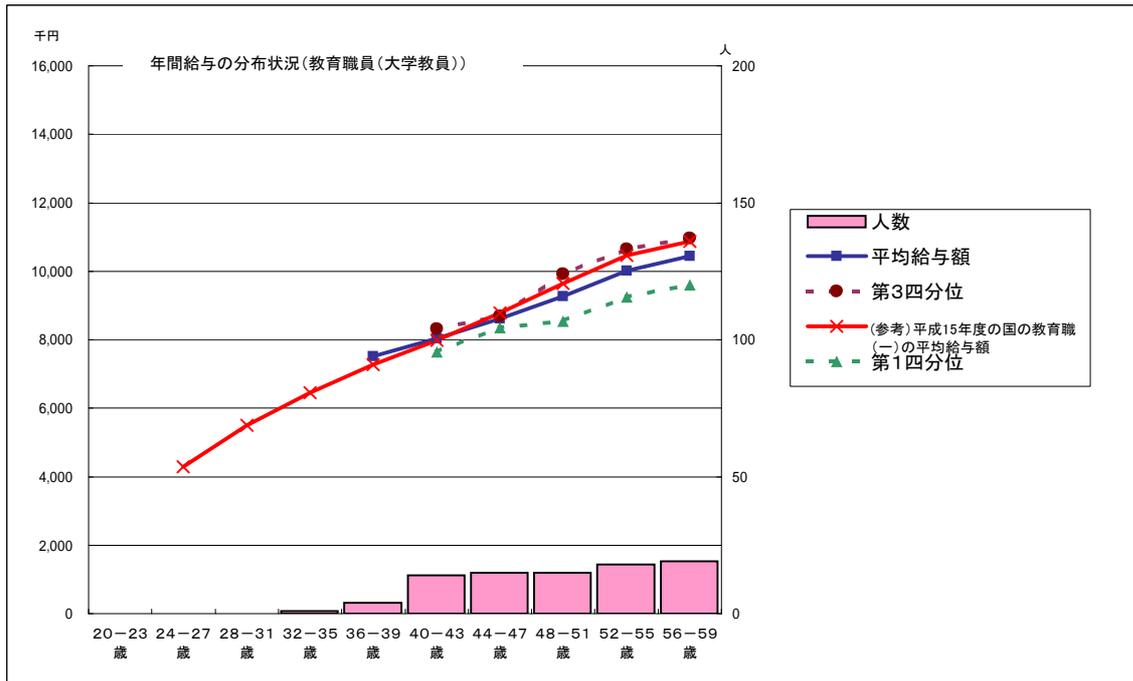


注1: ①の年間給与額から通勤手当を除いた状況である。以下、⑤まで同じ。
 注2: 年齢28～31歳は該当者が1人のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、年間給与については表示していない。
 注3: 年齢24～27歳、年齢28～31歳及び年齢52～55歳は該当者が4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、第1四分位及び第3四分位については表示していない。

| 分布状況を示すグループ | 人員 | 平均年齢 | 四分位 | | 平均 | 四分位 | |
|-------------|----|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | | | 第1四分位 | 第3四分位 | | 第1四分位 | 第3四分位 |
| | 人 | 歳 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 |
| 課長 | 7 | 51.4 | 7,285 | 7,921 | 8,651 | | |
| 副課長 | 4 | 56.8 | — | 7,380 | — | | |
| 係長 | 24 | 44.9 | 5,513 | 6,111 | 6,583 | | |
| 主任 | 3 | 42.8 | — | 5,097 | — | | |
| 係員 | 7 | 31.9 | 3,167 | 3,670 | 3,881 | | |

注: 副課長及び主任については該当者が4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、第1四分位及び第3四分位については記載していない。

(教育職員(大学教員))



注1: 年齢32～35歳は該当者が1人のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、年間給与については表示していない。
 注2: 年齢32～35歳、年齢36～39歳は該当者が4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、第1四分位及び第3四分位については表示していない。

| 分布状況を示すグループ | 人員 | 平均年齢 | 四分位 | | 平均 | 四分位 | |
|-------------|----|------|-------|--------|--------|-----|--|
| | | | 第1四分位 | 第3四分位 | | | |
| | 人 | 歳 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | |
| 教授 | 60 | 56.2 | 9,836 | 10,369 | 10,808 | | |
| 准教授 | 41 | 45.5 | 8,090 | 8,274 | 8,642 | | |

職級別在職状況等(平成19年4月1日現在)(事務・技術職員／教育職員(大学教員))

(事務・技術職員)

| 区分 | 計 | 1級 | 2級 | 3級 | 4級 | 5級 | 6級 |
|----------------|-----|---------------|---------------|----------------|---------------|---------------|---------------|
| 標準的な職位 | | 係員 | 係員主任 | 主任係長 | 係長副課長 | 副課長課長 | 課長 |
| 人員(割合) | 45人 | 4人 (8.9%) | 4人 (8.9%) | 24人 (53.3%) | 4人 (8.9%) | 6人 (13.3%) | 3人 (6.7%) |
| 年齢(最高～最低) | | 30～26歳 | 45～32歳 | 56～34歳 | 59～49歳 | 59～49歳 | 57～49歳 |
| 所定内給与年額(最高～最低) | | 2,374～2,303千円 | 4,023～2,570千円 | 4,972～3,394千円 | 5,222～5,054千円 | 5,704～5,091千円 | 6,351～5,941千円 |
| 年間給与額(最高～最低) | | 3,266～3,167千円 | 5,459～3,534千円 | 6,917～4,719千円 | 7,325～7,075千円 | 7,768～7,173千円 | 8,725～8,158千円 |

| 区分 | 計 | 7級 | 8級 | 9級 | 10級 |
|----------------|---|-------|-------|-------|-------|
| 標準的な職位 | | 課長 | 課長 | 事務局長 | 事務局長 |
| 人員(割合) | | 該当者なし | 該当者なし | 該当者なし | 該当者なし |
| 年齢(最高～最低) | | ～歳 | ～歳 | ～歳 | ～歳 |
| 所定内給与年額(最高～最低) | | ～千円 | ～千円 | ～千円 | ～千円 |
| 年間給与額(最高～最低) | | ～千円 | ～千円 | ～千円 | ～千円 |

(教育職員(大学教員))

| 区分 | 計 | 1級 | 2級 | 3級 | 4級 | 5級 | 6級 |
|----------------|------|-------|-------|-------|----------------|----------------|-------|
| 標準的な職位 | | 教務職員 | 助教助手 | 講師 | 准教授 | 教授 | 教授 |
| 人員(割合) | 101人 | 該当者なし | 該当者なし | 該当者なし | 41人 (40.6%) | 60人 (59.4%) | 該当者なし |
| 年齢(最高～最低) | | ～歳 | ～歳 | ～歳 | 58～34歳 | 64～43歳 | ～歳 |
| 所定内給与年額(最高～最低) | | ～千円 | ～千円 | ～千円 | 6,933～4,850千円 | 9,082～5,911千円 | ～千円 |
| 年間給与額(最高～最低) | | ～千円 | ～千円 | ～千円 | 9,603～6,705千円 | 12,668～8,256千円 | ～千円 |

賞与(平成18年度)における査定部分の比率(事務・技術職員／教育職員(大学教員))

(事務・技術職員)

| 区分 | | 夏季(6月) | 冬季(12月) | 計 |
|----------|---------------------|----------------|----------------|----------------|
| 管理 職員 | 一律支給分(期末相当) | % 66.2 | % 69.4 | % 67.9 |
| | 査定支給分(勤勉相当) (平均) | % 33.8 | % 30.6 | % 32.1 |
| | 最高～最低 | % 36.0～32.5 | % 32.6～29.6 | % 33.0～31.3 |
| 一般 職員 | 一律支給分(期末相当) | % 66 | % 69.1 | % 67.6 |
| | 査定支給分(勤勉相当) (平均) | % 34 | % 30.9 | % 32.4 |
| | 最高～最低 | % 36.7～31.5 | % 33.6～28.7 | % 33.6～30.0 |

(教育職員(大学教員))

| 区分 | | 夏季(6月) | 冬季(12月) | 計 |
|----------|---------------------|----------------|----------------|----------------|
| 管理 職員 | 一律支給分(期末相当) | % 64.7 | % 67.7 | % 66.2 |
| | 査定支給分(勤勉相当) (平均) | % 35.3 | % 32.3 | % 33.8 |
| | 最高～最低 | % 36.7～32.7 | % 33.6～29.8 | % 35.1～31.2 |
| 一般 職員 | 一律支給分(期末相当) | % 65.8 | % 68.7 | % 67.3 |
| | 査定支給分(勤勉相当) (平均) | % 34.2 | % 31.3 | % 32.7 |
| | 最高～最低 | % 36.7～31.1 | % 33.6～29.4 | % 35.1～30.5 |

職員と国家公務員及び他の国立大学法人等との給与水準(年額)の比較指標
(事務・技術職員／教育職員(大学教員))

(事務・技術職員)

対国家公務員(行政職(一))

87.1

対他の国立大学法人等(事務・技術職員)

100.9

(教育職員(大学教員))

対他の国立大学法人等(教育職員(大学教員))

96.8

注：当法人の年齢別人員構成をウェイトに用い、当法人の給与を国の給与水準(「対他の国立大学法人等」においては、すべての国立大学法人等を一つの法人とみなした場合の給与水準)に置き換えた場合の給与水準を100として、法人が現に支給している給与費から算出される指数をいい、人事院において算出

給与水準の比較指標について参考となる事項

教育職員(大学教員)の平成15年度の国の教育職(一)との比較指標

97.3

III 総人件費について

| 区 分 | 当年度 (平成18年度) | 前年度 (平成17年度) | 比較増△減 | | 中期目標期間開始時(平成16年 度)からの増△減 |
|---------------------|-----------------|-----------------|---------|----------|-----------------------------|
| | 千円 | 千円 | 千円 | (%) | 千円 (%) |
| 給与、報酬等支給総額 (A) | 1,979,784 | 2,033,850 | 54,066 | (2.7) | 76,496 (3.7) |
| 退職手当支給額 (B) | 234,781 | 288,824 | 54,043 | (18.7) | 39,598 (14.4) |
| 非常勤役職員等給与 (C) | 174,598 | 174,950 | 352 | (0.2) | 18,058 (11.5) |
| 福利厚生費 (D) | 263,917 | 266,226 | 2,309 | (0.9) | 358 (0.1) |
| 最広義人件費 (A+B+C+D) | 2,653,080 | 2,763,850 | 110,770 | (4.0) | 98,394 (3.6) |

注:「非常勤役職員等給与」においては、人材派遣契約に係る費用等を含んでいるため、財務諸表附属明細書の「役員及び教職員の給与の明細」における非常勤の合計額と一致しない。

総人件費について参考となる事項

①給与、報酬等支給総額が対前年度比△2.7%に至った主な理由は、平成18年3月31日定年退職等に伴う欠員の補充凍結(大学教員)及び人員削減(事務職員)によるものである。

最広義人件費が対前年度比△4.0%に至った主な理由は、上記理由、及び当年度における退職手当支給額が減少したことによるものである。

②「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」(平成18年法律第47号)及び「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)による人件費削減の取組の状況

i) 中期目標において、経費の抑制に関する目標として、『「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)において示された総人件費改革の実行計画を踏まえ、人件費削減の取組を行う』と明記した。

ii) 中期計画において、その具体的方策として、『総人件費改革の実行計画を踏まえ、平成21年度までに概ね4%の人件費削減を図る』と明記した。

また、役職員の給与に関し、国家公務員の給与制度を参考に、平成18年4月1日以降、俸給の引き下げ[一般職俸給表(一)は平均△4.8%(国の行政職俸給表(一)に相当)、教育職俸給表(一)は平均△5.5%]を実施するなど、国家公務員の給与構造改革を踏まえた見直しに取組んでいる。

iii) 人件費削減の取組の進捗状況

・基準年度の「給与、報酬等支給総額」 2,033,850千円 …… A

・当年度の「給与、報酬等支給総額」 1,979,784千円 …… B

・当年度までの人件費削減率

$$\begin{aligned} \text{計算式} &= (B - A) \div A \times 100 \\ &= (1,979,784 \text{千円} - 2,033,850 \text{千円}) \div 2,033,850 \text{千円} \times 100 \\ &= \Delta 2.7\% \end{aligned}$$

③・当年度の「給与、報酬等支給総額」 1,979,784千円 …… C

・平成17年度の「人件費予算相当額」 2,152,386千円 …… D

・人件費の削減率(対人件費予算相当額)

$$\begin{aligned} \text{計算式} &= (C - D) \div D \times 100 \\ &= (1,979,784 \text{千円} - 2,152,386 \text{千円}) \div 2,152,386 \text{千円} \times 100 \\ &= \Delta 8.0\% \end{aligned}$$

IV 法人が必要と認める事項

特になし